

歿後60年 師・劉生、そして家族とともに

椿貞雄

*Life as Painter:
The Art of Tsubaki Sadao and his Family, and Mentor, Kishida Ryusei*

会期 2017年6月7日(水)～7月30日(日)

開館時間 10:00～18:00(金・土曜日は20:00まで) ※入場受付は閉館の30分前まで

休館日 7月3日(月)

観覧料 一般1,200(960)円、大学生700(560)円

※小・中学生、高校生、障害者手帳をお持ちの方とその介護者1名は無料

※()内は前売り、団体20名以上、市内在住65歳以上の方の料金

※前売券は千葉市美術館ミュージアムショップ(5月28日まで)、およびローソンチケット(Lコード:34280)、セブンイレブン(セブンチケット)、千葉都市モノレール「千葉みなと駅」「千葉駅」「都賀駅」「千城台駅」の窓口(7月30日まで)にて販売。

主催 千葉市美術館

出品協力 東京国立近代美術館



椿貞雄《自画像》

1915(大正4)年1月9日 千葉県立美術館蔵

「劉生の弟子」にして「愛情の画家」、椿貞雄——ゆかりの地・千葉にて20年ぶりの回顧展

展覧会概要

山形県米沢市に生まれた椿貞雄(1896-1957)は、早逝した長兄の影響により画家を志すようになります。1914(大正3)年に上京した椿は岸田劉生(1891-1929)の個展を見て彼に会うことを決意しました。翌15年、劉生に迎えられた彼は草土社の結成に参加します。また彼は思想的には武者小路実篤や長與善郎たちの人道主義の感化を受け、『白樺』に育まれた芸術家として成長していきました。

椿は美術学校などで正式な絵画技法を習得しないまま、画家となりました。劉生も白馬会葵橋洋画研究所で指導を受けた以外は独学でしたが、椿と出会った当時、独自の思索によって明治期以来の油彩画のなかで際立って濃密な絵画世界を作り上げようとしていました。椿は文字通りそのかたわらで絵画の制作を学びました。

椿の画業は1920年頃より始まった劉生の東洋的写実に対する関心に従って変化し、やがて日本画(墨彩画)の制作も行うようになります。29年、椿は劉生の死によって制作に行き詰まるほどの状態になりますが、劉生が構想した日本における油彩画表現を受け継ぎ、独自の画境に到達しました。その世界は、東洋絵画の伝統を踏まえながらも近代日本の市民生活に根ざしたおだやかさに特徴が見られます。

椿は1927(昭和2)年から亡くなるまで船橋市に住み、制作活動を続けました。歿後60年を迎え、彼が暮らした房総の地で開催される本展では、本人の作品だけではなく、彼の画業を考える上で欠かせない岸田劉生の作品、そして51年から父と同じ国画会に出品した次女の椿夏子(1926-2004)の型絵染による作品を紹介し、市井に生きた日本人が見つめた世界を回顧します。

※会期中、一部展示替えを行います。

千葉市美術館
Chiba City Museum of Art

〒260-8733 千葉市中央区中央3-10-8

Tel. 043-221-2311(代) <http://www.ccma-net.jp>

展示構成

- | | |
|------------------|-----------|
| 1. 出会い | 3. 静物画の展開 |
| 2. 伝統へのまなざしと劉生の死 | 4. 家族とともに |



椿貞雄《冬瓜南瓜図》1946-47(昭和21-22)年 島根県立石見美術館蔵

みどころ

・千葉ゆかりの画家

椿貞雄は、1927年に千葉県の船橋町立小学校の図画教師に着任、亡くなるまで30年にわたって船橋の土地で家族とともに暮らしました。本展では椿が初めて描いた油彩画から絶筆まで、各地の美術館・個人が所蔵する約150点を紹介。1996年に千葉県立美術館で開催された「生誕100年記念椿貞雄展」以来、ゆかりの土地・房総での20年ぶりの大規模な回顧展であり、千葉市美術館単独開催となります。

・岸田劉生との深いつながり

椿は中学生の頃から、長兄の影響で当時の新しい美術を牽引していた岸田劉生の作品を知り、憧れていました。画家を志して上京した直後に劉生の作品を見る機会を得て圧倒された椿は劉生に面会、ふたりの交流が始まりました。劉生が発起した草土社でも有力なメンバーとなり、椿は画家として生きることを決意します。

お互い近所に住まうなど深い交流を持ち、劉生を通じて武者小路実篤らとも親交を深めました。岸田劉生の影響を強く受け、模倣者として見られることも多い椿貞雄ですが、劉生の死後、独自の画風を模索し変化を遂げました。椿に影響を与えた劉生の作品は約30点を紹介、そこから椿が何を学んだのかをご覧ください。(会期中、展示替えがあります。)

・愛情の画家

—— 夫婦、親子、祖父母と孫との愛情、そんなモチーフの画家としての自分の美しい特色を發揮することに早く専念したら、椿はもっともっと多くの傑作を遺し、他人の追従を許さなかったであろう。—— ながよしろう 長與善郎

椿貞雄は「愛情の画家」である、とは義兄であり白樺派作家の長與善郎ながよしろうが評した言葉です。椿は一男三女のこどもをもうけ、彼ら孫三人にも恵まれました。椿は劉生の死後1950年頃から「やっと劉生を意識することなく自由に絵がかけられるようになった」といい、明るい画風に転換します。本展でも家族や孫達を描いた絵画を多数展示し、「愛情の画家」と呼ばれる椿の側面を紹介します。家族に注ぐあたたかな視線をご覧ください。

■ 椿貞雄略年譜

| | |
|---|--|
| 1896年 2月10日 米沢市に生まれる。 | 1926年(30歳) 鎌倉へ転居、山本鼎の紹介により船橋町立小学校の図画 教員となる。(～1928年) |
| 1914年(18歳) 画家を志し、上京。10月、岸田劉生の作品を実際に見る。 | |
| 1915年(19歳) 1月、劉生の自宅を訪問、交友が始まる。巽画会第15回美術展覧会に 出品、最高賞2等を受賞。 | 1927年(31歳) 慶應義塾幼稚舎図画教員となる。(～1945年) |
| 1921年(25歳) 劉生夫妻の媒酌により隆子と結婚。 | 1929年(33歳) 12月、岸田劉生死去(享年38歳)。 |
| 1923年(27歳) 関東大震災により米沢へ帰郷。 | 1932年(36歳) ヨーロッパ遊学。 |
| | 1957年 12月29日 千葉大学医学部附属病院に入院後、死去。(享年61歳) |

記者レクチャー

報道関係の皆様を対象に、披露説明会を行います。スライドレクチャーにて作品の見どころを担当学芸員よりご説明し、その後展示室をご覧ください。

6月6日(火) / 15:00より(1時間程度) / 10階会議室にて(その後、8・7階展示室へご案内いたします)

参加ご希望の方は同封の申込書に必要事項をご記入の上、FAXにてご連絡ください。

関連企画

講演会

■記念講演会「愛情の画家 椿貞雄」

【講師】花田美穂(伝国の杜 米沢市上杉博物館 学芸主査)
6月17日(土)14:00より(13:30開場予定)
11階講堂にて／聴講無料
先着150名(当日12:00より11階にて整理券配布)

市民美術講座

■「岸田劉生は何を描きたかったのか」

【講師】藁科英也(当館上席学芸員)
6月24日(土)14:00より(13:30開場予定)
11階講堂にて／聴講無料／先着150名

■「椿貞雄は何を描いたか」

【講師】藁科英也(当館上席学芸員)
7月15日(土)14:00より(13:30開場予定)
11階講堂にて／聴講無料／先着150名

ワークショップ

■「描くように染める」(事前申込制)

7月2日(日)13:30～16:30(13:20開場予定)／11階講堂にて
参加費：700円(材料費込み)／定員15名／対象：中学生以上
専用の紙を切り抜いてオリジナルデザインの型を作り、トートバックを染色します。

【申込方法】

往復はがきまたはホームページからお申込みください。往復はがきの場合は、郵便番号・住所・電話番号(当日連絡可能なもの)・氏名・年齢・参加希望のイベント名・参加人数(2名まで)を明記の上、〒260-8733 千葉市中央区中央3-10-8「千葉市美術館イベント係」まで。
締切：6月21日(水)必着 *応募多数の場合は抽選

ギャラリートーク

担当学芸員による：6月7日(水)14:00～
ボランティアスタッフによる：会期中の毎週水曜日
(6月7日を除く)

※水曜日以外の平日の14:00にも開催することがあります。
※混雑時には中止する場合があります。

◆イベントの追加、変更につきましてはホームページをご確認ください

同時開催

所蔵作品展「椿貞雄をめぐって—千葉ゆかりの美術」

※「歿後60年 椿貞雄」展をご観覧の方は無料



無縁寺心澄《千葉中時計台》
大正14～昭和14(1925-39)頃
千葉市美術館蔵

次回展予告

「CCMAコレクション いま／むかし うらがわ」

2017年8月5日(土)～8月27日(日)



歌川国芳《相馬の古内裏》
天保(1830-44)後期 千葉市美術館蔵

交通案内

■JR千葉駅東口より 徒歩約15分／バスのりば⑦より大学病院行または南矢作行にて「中央3丁目」または「大和橋」下車徒歩約3分／バスのりば⑩C-busにて「中央区役所／千葉市美術館前」下車／千葉都市モノレール県庁前方面行「葭川公園駅」下車徒歩約5分

■京成千葉中央駅東口より 徒歩約10分

■東京方面から車では 京葉道路・東関東自動車道で宮野木ジャンクションから木更津方面へ、貝塚IC下車、国道51号を千葉市街方面へ約3km、広小路交差点近く
※千葉市中央区役所と同じ建物です。

※地下に、区役所と共用の機械式駐車場がありますが混雑時はご不便をおかけすることもありますので、公共交通機関でのご来館をお願いします。



「歿後60年 椿貞雄 師・劉生、そして家族とともに」

広報用画像一覧

展覧会広報用として作品画像をご用意しております。是非、本展をご紹介くださいますようお願いいたします。ご紹介いただける場合は、別紙の申込書に必要事項をご記入の上、FAXにてご連絡ください。画像の使用は1回限りとし、展覧会紹介の目的にのみご使用ください。



1. 椿貞雄《自画像》1915(大正4)年1月9日
千葉県立美術館蔵



2. 椿貞雄《髪すき図》1931(昭和6)年
東京国立近代美術館



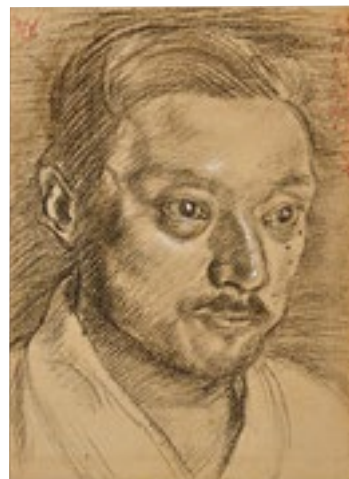
3. 椿貞雄《冬瓜南瓜図》1946-47(昭和21-22)年
島根県立石見美術館蔵



4. 椿貞雄《朝子像》1927(昭和2)年
平塚市美術館蔵



5. 岸田劉生《狗をひく童女》1924(大正13)年
ポーラ美術館蔵



6. 岸田劉生《芝川照吉氏之像》1919(大正8)年7月10日
東京国立近代美術館蔵

「歿後60年 椿貞雄 師・劉生、そして家族とともに」
広報用画像データ・プレゼント用招待券申込書

■ 写真ご使用に際してのお願い

- * 作品写真の使用は、本展のご紹介をいただける場合のみとさせていただきます。
- * 写真のご利用は、1 申込について 1 回とし、使用後のデータは破棄してください。
- * 基本情報確認のため、広報担当まで一度校正紙をお送りください。
- * 掲載後、広報担当まで見本誌をご送付くださいますようお願いいたします。
- * お手数ですが、招待券プレゼントの受付、発送などは、貴編集部にてお願いいたします。
原則として、掲載紙をご送付いただきました時に招待券をお送りいたします。

千葉市美術館
広報担当 行
FAX：043-221-2316

| | |
|------------------|---|
| 貴社名： | 媒体名： |
| ご担当者名： | 発行予定日： |
| TEL： | 発行部数： |
| FAX： | 定価： |
| Email： | 掲載予定コーナー名等： |
| 画像到着希望日： 月 日 時まで | 画像の掲載サイズ <small>（おおよそで結構です 例：5cm 四方、など）</small> ： |

■ 画像データ申込（ご希望のデータの番号に○をつけてください。）

1. 椿貞雄《自画像》1915(大正4)年1月19日 千葉県立美術館蔵
2. 椿貞雄《髪すき図》1931(昭和6)年 東京国立近代美術館
3. 椿貞雄《冬瓜南瓜図》1946-47(昭和21-22)年 島根県立石見美術館蔵
4. 椿貞雄《朝子像》1927(昭和2)年 平塚市美術館蔵
5. 岸田劉生《狗をひく童女》1924(大正13)年 ポーラ美術館蔵
6. 岸田劉生《芝川照吉氏之像》1919(大正8)年7月10日 東京国立近代美術館蔵

■ プレゼント用招待券申込

（ご希望の場合はチェックをつけてください）

5 組 10 名様分 希望します。

（それ以外の枚数が必要な場合は別途ご相談下さい。）

チケット送付先

ご住所：〒

問い合わせ先

千葉市美術館 〒260-8733 千葉市中央区中央3-10-8

Tel. 043-221-2311(代表) / 043-221-2313 (直通)

Fax. 043-221-2316

HP. <http://www.ccma-net.jp/>

広報担当：磯野 愛